

ウメのタマカタカイガラムシ防除技術

1 はじめに

タマカタカイガラムシは、ウメなどのバラ科樹木に集団で寄生して吸汁し、多発すると枝を枯死させる新たな害虫です(写真1)。本県のウメ園ではおよそ10年前から発生が認められ、被害が拡大しています。

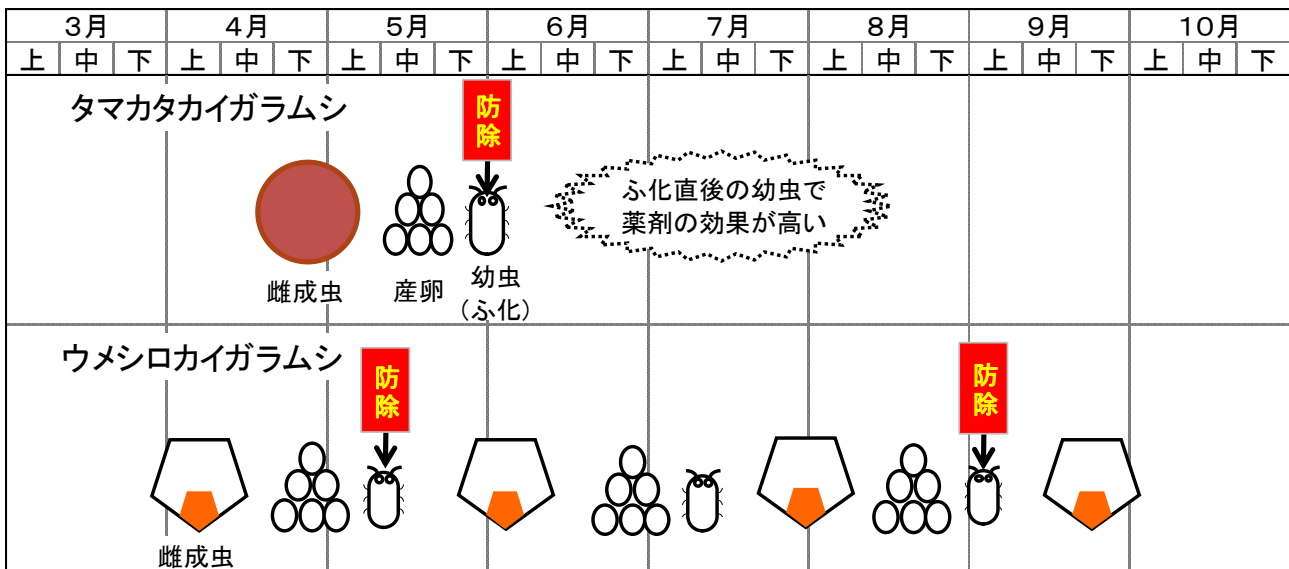
ウメ樹におけるタマカタカイガラムシの効果的な防除方法を明らかにしたので、紹介します。



写真1 成虫

2 ふ化最盛期(5月末頃)に防除

若狭町における平成28年のタマカタカイガラムシふ化最盛期は5月31日でした(写真2)。4月下旬～5月上旬にふ化するウメシロカイガラムシよりも1ヶ月遅いため、追加の防除が必要です(第1図)。幼虫の発生は年に1回だけなので、5月末を中心とした時期が1年中でもっとも有効な防除時期です。



第1図 タマカタカイガラムシの発生消長

3 ピリフルキナゾン水和剤を散布

タマカタカイガラムシは5月下旬にピリフルキナゾン水和剤(商品名: コルト顆粒水和剤)2,000倍液の散布により、増殖が抑制できます(第1表)。高い防除効果を得るには、5月中旬から幼虫のふ化を確認し、ふ化最盛期(幼虫の拡散開始時期)から数日以内に本剤を散布します。

第1表 薬剤散布後のカイガラ内幼虫生存数

処理区	希釈倍率	散布日(月/日)	幼虫数(頭/カイガラ)	対無散布比
ピリフルキナゾン水和剤	2,000倍	5/18	5.0	60
		5/24	2.7	33
		5/31	1.3	16
無散布			8.3	100

調査時期: 8月中下旬

4 防除のポイント

タマカタカイガラムシは日陰部を好んで定着しているので、樹の下から吹き上げて薬剤を散布すると効果が安定します。